

重点プロジェクト	1 ごみを出さないまちプロジェクト	
基本目標	① 循環型社会の構築	
取組のテーマ	廃棄物の削減には発生の抑制が最重要課題。可燃ごみの約4割を占める「生ごみ」をポイントに減量を図る。	
取組の状況		今後の方針
<p>1 生ごみの堆肥化講座の開催</p> <p>自家処理を促進するため、公民館などで市民を対象として、段ボールによる生ごみの堆肥化講座を開催している。併せて、同講座の受講者、電動生ごみ処理機購入補助金利用者などを対象に、堆肥を家庭の鉢植えなどで活用できるガーデニング講座をリフレッシュプラザで開催している。なお、多くの市民に普及を図るため、平成24年度から、生ごみの堆肥化講座は、初めて受講する方を対象としている。</p> <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段ボール生ごみ堆肥化講座：平成24年度(21回353名)、H25年度(20回575名) ・ガーデニング講座：平成24年度(2回55名)、平成25年度(1回30名) <p>2 生ごみ減量アドバイザーの派遣</p> <p>生ごみ減量などに関する知識等を有する者をアドバイザー登録し、これらの者の派遣について、市の広報、HPなどで広く周知を図るとともに、住民自治協議会の総会などでもPRを行い、各住民自治協議会、地区、サークルなどが開催する堆肥化講習会など(H25:21回329名)に派遣している。</p> <p>なお、実践を促進するため、平成24年度からは、生ごみ堆肥化のもととなる基材について、アドバイザーの派遣時に斡旋している。</p> <p><u>受講者の約4割は、虫の発生や冬期の生ごみ分解が進まない等の理由から、堆肥づくりを止める場合がある。多くの家庭が継続できるための検討が必要である。</u></p>		<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみの堆肥化講座の内容に、堆肥づくりのポイントなど細かな指導を加えるなど講座の内容の見直しや、生ごみ堆肥作りをフォローアップする講座を開催し継続して取組める講座を実施する。 ・段ボールコンポストや堆肥化のもととなる「基材」について補助対象を拡充し、段ボールによる堆肥化を推進する。

重点プロジェクト	2 ごみのないきれいなまちプロジェクト	
基本目標	② 良好な生活環境の確保	
取組のテーマ	「長野市ポイ捨て等を防止し、ごみのないきれいなまちをつくる条例」の認知度を向上していく。	
	取組の状況	今後の方針
1 条例の周知	<p>条例の施行（平成23年4月）に合わせ、周知、啓発に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 東急百貨店懸垂幕（年2回、4ヶ月×2） TOiGOビジョン（毎月） 市内路線バス広告エプロン（年1回、1ヶ月）、側面（通年2台） 長野大通りなどの交差点の路面表示シート設置(87箇所) 	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年の新幹線延伸、善光寺御開帳などを見据え、特に中心市街地において、ごみが捨てられにくい環境の整備に向けて、周知、啓発の取り組みを推進する。
2 たばこの吸い殻ポイ捨て本数の調査	<p>条例の公布（平成22年12月）に合わせ、平成23年1月から毎月、中心市街地の主要道路（長野大通り、昭和通り、中央通り）を中心に、たばこの吸い殻ポイ捨て本数の調査を行い、状況の把握に努めている。</p> <p>【調査1回当たりの平均本数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成23年1月～平成23年3月： <u>642</u> 本 平成24年1月～平成24年3月： <u>634</u> 本 平成25年1月～平成25年3月： <u>578</u> 本 平成26年1月： <u>424</u> 本（参考） 	

重点プロジェクト	3 地域の豊かな生物多様性を保全するまちプロジェクト	
基本目標	③ 質の高い自然環境の確保	
取組のテーマ	市域全体における生態系に関する正確な情報を、体系的に蓄積、整理し、生態系の保全に向けた取組を推進する。	
	取組の状況	今後の方針
	<p>1 「大切にしたい長野市の自然（改訂版）」の作成</p> <p>平成25年3月に、専門分野の学識者などの調査、協力により、かつては身近で普通に見られた動植物種を中心に植物、動物、地形・地質などを体系的に整理した「大切にしたい長野市の自然（改訂版）」を発刊した。</p> <p>選定内容：植物(99種)、動物(239種)、地形・地質(39箇所)、湧水(50箇所)、特色ある地域(43)</p> <p><u>保全に向けて、選定結果から取組の対象の抽出、具体的な保全策の検討が必要。</u></p> <p>2 生物多様性の保全に向けた取組</p> <p>「大切にしたい長野市の自然（改訂版）」に記載されており、緊急性が高いことから、信州大学を中心にした保護活動が続けられているシナイモツゴ（県指定希少野生動物）について、さらに継続するために、平成24年度から、茶臼山動物園において飼育、繁殖できる環境の整備に着手した。平成25年度には、飼育水槽を2基追加し、現在、約150匹飼育されている。</p> <p><u>生息地（篠ノ井信里地区）のため池では、オオクチバス等の外来種や近縁種のモツゴが確認されており、捕食や交配によるシナイモツゴの減少が危惧される。</u></p>	<p>・保全に取り組む対象の優先順位、保全策について、長野市自然環境保全推進委員の協力を得て行う実態把握調査の結果等も踏まえて、具体的な検討を進める。</p> <p>・現在、保護しているシナイモツゴについては、引き続き茶臼山動物園において飼育、繁殖を行うとともに、生息環境の調査行い、放流に向けて検討を進める。</p>

重点プロジェクト	4 豊かなみどりを未来に引き継ぐまちプロジェクト	
基本目標	④ 豊かで快適な環境の創造	
取組のテーマ	身近な緑に対する市民の意向が高まってきている。市の緑に関する総合的な計画である「緑を豊かにする計画」を、環境の側面からも推進する。	
取組の状況		今後の方針
<p>市街地における緑の創出</p> <p>都市公園の整備状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成23年度末283.1ha(193箇所) 平成24年度末284.2ha(193箇所) <p>篠ノ井中央公園（の一部）供用開始</p> <p>目標:市民一人当たりの都市公園面積:8.20㎡(H28年度末)</p> <p>実績:平成23年度末7.33㎡、H24年度末7.38㎡</p> <p><u>整備後の維持管理について、市民からの要望等に十分に答えられていない状況にある。</u></p> <div data-bbox="210 1318 1605 1711" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 20px;"> <p>【参考】「緑を豊かにする計画」（平成21年4月策定）について 緑豊かなまちづくりを計画的に推進する指針となる本計画は、 （1）市街地における都市公園、街路樹の整備などによる緑の創出 （2）受け継がれてきた緑豊かな森林、河川等の保全 （3）緑と親しむ文化や人を育む緑育の推進 の3つの基本方針で構成されている。</p> </div>		<ul style="list-style-type: none"> 都市公園の整備に当たっては、地区住民等と協議を行い、利用者のニーズに合わせた整備内容とする。 整備後の維持管理に当たっては、公園・街路樹の愛護会等との協働を更に進める。 身近な緑の創出を環境面から推進するため、癒しや景観上の効果がある緑のカーテン、沿道緑化等の具体化について検討する。

重点プロジェクト	5 再生可能エネルギーの導入で安全・安心なまちプロジェクト	
基本目標	⑤低炭素社会の構築	
取組のテーマ	再生可能エネルギーの導入に、新たな防災対策の役割を取り入れながら、安心なまちづくりを目指す。	
	取組の状況	今後の方針
	<p>太陽光発電施設設置と新たな防災対策の役割</p> <p>市有施設の太陽光発電設備については、平成17年度から導入を始め、平成25年12月末までに43箇所において設置が完了した。</p> <p>平成24年度からは、防災対策の観点から、震災時の停電などを想定し、自立運転機能付の設備の設置を進めており、8箇所(うち避難所5箇所)に設置を完了した。</p> <p>【実績】 太陽光発電設備設置数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成17～23年度：34施設 <ul style="list-style-type: none"> 内訳：自立運転機能7箇所 この内避難所1箇所 ・平成24年度：3施設（消防分署1、公園管理棟1、市民センター1） <ul style="list-style-type: none"> 内訳：自立運転機能3箇所 この内避難所0箇所 ・平成25年度：6施設（小学校4、中学校1、公民館1） <ul style="list-style-type: none"> 内訳：自立運転機能5箇所 この内避難所5箇所 	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県グリーンニューデイル基金を活用し防災対策の観点から、太陽光発電施設と併せて蓄電池を設置する事業を、信州新町体育館において計画している(平成26年度)。 ・蓄電池の性能を検証し、蓄電池を含めた自立運転機能付太陽光発電施設の設置を検討する。

重点プロジェクト	6 パートナースHIPの人づくりのまちプロジェクト	
基本目標	⑥市民・事業者・行政の連携強化と人づくりの推進	
取組のテーマ	市民・事業者・行政の連携強化、環境教育・環境学習は、環境保全活動の基盤であることから、横断的、継続的に取り組む。	
	取組の状況	今後の方針
1 飯綱高原実験林の活用	<p>平成元年から平成25年度までの間、飯綱高原において、学識者（亀山章名誉教授）の指導の下、実験林（森林博物館）の整備を進めてきた。平成26年度以降は、その成果について、市民等と情報の共有を図り、広く里山保全の取組に活用していくとともに、実験林（森林博物館）も継続して維持管理を行い、環境教育の場として活用していくこととした。</p> <p><u>継続した維持管理と教育の場としての活用には、市民・事業者・行政の連携体制の確立が必要。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実験を通じて得られた成果、知見と実験林（森林博物館）の効果的な活用には、市民・事業者・行政の連携が不可欠である。里山の保全を推進する様々な団体等との協働を進めていく。 ・実験林（森林博物館）は、飯綱高原に生息している様々な動植物が観察できることから、生物多様性の保全を推進する上で、有益な環境であるが、市民への周知が十分でないため、今後、実験林の有効活用に向けさらにPRを進めていく。
2 大谷地湿原の保護対策	<p>平成25年度に、乾燥化が進む大谷地湿原（上信越高原国立公園第2種特別地域内）の保護対策について、地区住民（飯綱高原観光協会など）、関係機関（環境省戸隠自然保護官、長野県環境保全研究所）などとの協議を開始した。平成26年度からは、その原因を究明するため、土壌、水質調査に取り組む予定。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大谷地湿原の保護対策は、自然環境の保全という側面だけでなく、地域の観光とも密接に関係していることから、学識者、地区住民などと合同で協議を行い、連携を図り、両側面から適切な内容とする。